



あの「猫町」の表装は、
僕の従来出した本の中で、
いちばん自分の気に入ってる。

—— 萩原朔太郎

「自著の装幀について」
『日本への回帰』1938(昭和13)年3月白水社

『猫町』を

Sat.

Sun.

2025 06.28 - 09.07

開館時間：9時～17時(入館は30分前まで) 休館日：水曜 会場：3階オープンギャラリー 観覧料：無料

主催：前橋市 協力：日本図書設計家協会

僕の意図する所を理解し、
的確に自分の詩精神をつかんで
表現してくれるには、
いつも乍ら敬嘆する。

著者にとっては、
自分のプランしてある
画の注文をよく理解して
忠実に描いてくれる画家が、
何よりいちばんありがたいのである。

のブックデザイン

を包む



萩原朔太郎記念・水と緑と詩のまち

前橋文学館



〒371-0022 群馬県前橋市千代田町3-12-10
TEL: 027-235-8011 FAX: 027-235-8512
<https://www.maebashibungakukan.jp>

ど
し
を
見
て
も
猫
は
か
り
た

猫
猫
猫
猫
猫
猫
猫
猫
猫
猫
猫

詩人 萩原朔太郎(1886~1942年)が生んだ

短編小説『猫町』(1935年刊行、版画荘)。

主人公「私」が猫だらけの異世界に迷い込む、

奇妙で幻想的なストーリー。

それは迷える精神が見せた白昼夢なのか、もう一つの現実なのか…。

本作は90年経った今もなお多くのファンを魅了し、

クリエイターの創作意欲を掻き立てています。

『猫町』刊行90周年を記念し、装丁をテーマに、

川上澄生(1895~1972年)によるオリジナルと

現代の装丁家によるユニークな作品の饗宴をご覧ください。



※本展は2024年6月10日~7月19日まで
竹尾見本帖本店(東京都千代田区)で開催された
「文豪×文庫 夏目漱石・林芙美子・萩原朔太郎
—名作の装丁 新しい100冊—」展
(日本図書設計家協会・株式会社竹尾 共催)を
もとに再構成した展覧会です。

「猫町」装丁・装画

天野誠、西村隆史、荒田秀也、伊藤嘉津郎、高野謙二、今村彰宏、上野かおる、出口敦史、大河原一樹、金浦寧々、大橋義一、田伊然、オビカカズミ、唐澤亜紀、北尾崇、高橋祐次、小島トシノブ、陸心宇、後藤祥子、堀江恭一、小林真理、山中克子、佐藤昌己、植草桂子、三部八十彦、サンベヤソヒコ、下川雅敏、なかむら葉子、大悟法淳一、カワタアキナ、竹田壮一郎、綾幸子、市川実佑、はむにゃん、土屋みづほ、松井望、鶴貝好弘、鶴泰輔、永島壮矢、中島慶章、なかがわみさこ、中村欽太郎、藍月リオン、中村友和、水口智彦、仁井谷伴子、西岡裕二、平川珠希、福田和雄、八幡瑛子、福原伸樹、藤崎キョーコ、酒井千絵、藤城雅彦、とつかりょうこ、松本みさこ、宮川和夫、京極あや、宮坂佳枝、森永真理子、柳沢耕平、佐多良江、ラジカル鈴木 <「文豪×文庫」展より>

折原カズヒコ、新井大輔、石間淳、大滝奈緒子、小川恵子、河村誠、坂川朱音、白畠かおり、武中祐紀、原田恵都子、山川直人 <装丁夜話「猫町」装丁展 萩原朔太郎×山川直人より>

市川曜子、金井田英津子、川上澄生、小池アミゴ、小林真理、しきみ、山口マオ、山中克子、山本ミノ など [順不同]

関連イベント

関連
イベント
01

えっ!? 本がこんなにちっちゃいニヤ!
~豆本をつくるワークショップ~



07.12 sat. 10:00~ | 13:30~

会場: 前橋文学館3Fホール 参加費: 当日、ショップで「つくるキット券」(500円)をご購入ください。
定員: 各回20名(要予約) 対象: 小学生以上(小学生は保護者同伴) 申し込み: 5月24日~ (tel:027-235-8011)
講師: 群馬県立女子大学准教授 奥西麻由子 協力: 群馬県立女子大学(アートマネジメントゼミ)

関連
イベント
02

『猫町』を読む 河崎早春×萩原朔美



『猫町』
1935(昭和10)年11月
版画荘
装幀案: 萩原朔太郎
画: 川上澄生

07.26 sat. 14:00~

会場: 前橋文学館3Fホール 参加費: 当日、観覧券(700円)をご購入ください。
定員: 定員80名(要予約) 申し込み: 5月24日~ (tel:027-235-8011)

河崎
早春



俳優、朗読家。青山学院大学日本文学科卒。劇団テアトル・エコー養成所3期生。第一回ギョウフォウシ短編劇コンクール最優秀賞。NPO日本朗読文化協会講師。朗読を仕事にして46年。文学を解剖しながら朗読する「名作の謎解き」、ピアノを弾きながらの「弾き語り」、一人芝居風、雑談付き朗読、掛合い朗読…等々。Facebook、YouTube「本に囲まれて」。日本語独特の音色と流れを伝えるWSも展開中。

萩原
朔美



映像作家。多摩美術大学名誉教授。母は小説家萩原葉子、母方の祖父は萩原朔太郎。1967年、寺山修司主宰の演劇実験室・天井桟敷の立ち上げに参加、俳優・演出家として活躍。著書に『死んだら何を書いてもいいわ』(2008年)『劇的な人生こそ真実』(2010年)他多数。2016年4月より前橋文学館館長。2021年、世田谷美術館に、版画、写真、本のオブジェなど、ほぼ全ての作品が収蔵された。2024年4月より前橋文学館特別館長。



萩原朔太郎記念・水と緑と詩のまち
前橋文学館

アクセス
(交通案内)

電車 JR前橋駅北口から徒歩約15分 上毛電鉄中央前橋駅から徒歩5分
自動車 関越自動車道 前橋I.Cから車で約15分
※広瀬川サンワパーキング(市営パーク城東)のご利用に際しては、
駐車券に割引処理をいたします。

同時
開催

第32回萩原朔太郎賞受賞者 最果夕ヒ展『愛を囁くのは世界の方で、
私たちはそれを二人で聞いている。ここで、二人で真珠になろう。』

06.07sat.~09.21sun.